

開催日時 平成30年6月1日（金） 13：30～

開催場所 生駒市役所 4階 401・402会議室

出席者

（参加者）久 隆浩氏、大原 暁氏、蓮花 一己氏、竹本 和靖氏、篠田 直喜氏、
内藤 利彦氏、鐵東 敦史氏、石川 千明氏、前原 金一氏

（事務局）坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、日高秘書企画課主幹、
片山秘書企画課員

（事務局）開会宣告、参加者紹介、事務局紹介、資料確認

以下、発言要旨

1-1-1 保育園の新設・機能評価

【久座長】 一番苦戦しているのが、待機児童対策。市だけでなく企業も巻き込んだ更なる取組を期待したい。

【鐵東氏】 企業側も企業内保育所の必要性を認識しているところであるので、協力して進めてもらいたい。

【石川氏】 施設の整備だけでなく、保育士の確保と出産等で離職した人に対する、復職の後押しをすることも必要。

【久座長】 施設整備のハード面と人材確保のソフト面を両面で考えないといけない。

【蓮花氏】 大学にもこども学科があり保育士志望の学生も在籍している。地元でインターンや実習などを実施できれば人材の確保に繋がる。

1-1-2 幼稚園の保育機能の充実

【竹本氏】 生駒幼稚園をこども園化するにあたって、具体的にどのような弊害があるのか。

【久座長】 幼稚園型のこども園は、親の就労状況が変わっても転園する必要がないので評判が良い。

【事務局】 幼稚園型のこども園は、駐車場の確保や職員の勤務時間などのハードルがあ

り保育園型より実現が難しいところではある。

1-1-3 病児保育機能の強化

【久座長】 K P I がずっと1のままで進展がない。

【鐵東氏】 目指す値が2になっているが、どこで実施できる可能性があるかと想定しているのか。

【事務局】 市立病院での実施を目標として2としている。今の利用状況からすると新たに実施する必要がないということで実施には至っていない。

【久座長】 利用者数が少ないから、ニーズがないと判断するのは短絡的である。現状では利用しづらいから利用者が少ない可能性もある。

【石川氏】 病児保育を利用するには、阪奈中央病院で診察してもらう必要がある。そのあたりもハードルになっているのではないかと。

【前原氏】 敷居が高いので利用されていないのではないかと。市立病院で実施しても良いのではないかと。

【久座長】 公立の施設として、サービスを先導的に実施していく必要がある。

1-2-1 子育て層を応援する情報提供の推進

【久座長】 いずれの指標もH28実績から数値が悪化している。原因を分析して、右肩上がりに伸びていくよう取り組まれない。

1-2-2 子育て層の交流促進

【石川氏】 みっきランドの整備は子育てサークルの支援に繋がっていない。イベント等でパパの意識改革が進んでいるところが見えるので、パパに対する取組は評価している。

【久座長】 行政と市民の間に認識のずれが生じているのかもしれない。行政が頑張れば頑張るほど、市民自らの活動を阻害してしまうことがある。

1-2-3 地域で子育てを見守る体制の強化

【久座長】 新生児・乳児訪問の実施率は、現状に満足せず100%を目指して取り組んでもらいたい。

1-2-4 地域活動への参加機会の創出

【石川氏】 ママボノイベントが内容のわりに人が集まらなかった。講座の参加者にママボノになってもらうなど、日ごろから地道に積み重ねて流れを作らないと難しい。講座はイコマドで実施しているので、ららポートとうまく連携して、ママボノ参加に向けた積み重ねをしてもらいたい。マッチングできる人も少なかったので、ママの人材バンクを作ることも重要だと思う。

【鐵東氏】 ママボノの力を借りたい人が今後増えると思うので、今のうちからプラットフォームづくりなどに取り組みたい。

【久座長】 マッチングが好きで得意な人もいる。活動したい人だけでなく、人と人、人と情報を繋ぐ人を見つけることも大事。

【鐵東氏】 マッチングにはノウハウが必要になってくる。間に入ることを仕事にしている人も増えているので、そのノウハウを活かすことも考えてみてはどうか。

1-3-1 災害・犯罪等に対する安全性の向上

【蓮花氏】 防犯や交通安全などの取組も実施されているのだろうが、それが取組内容や指標から見えてこない。もう少し記載を工夫されたい。

【前原氏】 防犯カメラの設置率は全国でもこの程度なのか。最近は、防犯カメラで犯人が特定されるケースも多い。

【蓮花氏】 企業や個人が設置されているものも含めればもっと多いと思う。

【前原氏】 市全体で防犯カメラがどれくらい設置されているかは行政として把握しておかなければいけないのではないかな。

【蓮花氏】 近くで事件が起きたときは映像提供を求められるので、警察では把握しているのではないかなと思う。

【前原氏】 設置状況をきちんと把握して、盲点があった場合は、警察と相談して対応するようにしてほしい。

【久座長】 他市では100台くらい設置されているところもある。それと比べれば少ない印象を受けるが、なぜ少ないか要因分析をする必要がある。生駒は安全という意識があっても少ないのか、予算の限度があって設置できないのかで大きく意味合いは違う。個人的には、防犯カメラがなくても安全な地域が一番良い。

【事務局】 生駒市は奈良県内の12市の中で人口1,000人あたりの犯罪認知件数は

一番低い。昨今の凶悪事件の多発などで自治会から防犯カメラ設置に係る補助の要望があったため、行政として補助を実施しているが、K P Iとしては、防犯に関する取組の効果を幅広く測るため防犯カメラの設置件数ではなく、刑法犯罪発生件数を設定しているところである。

【大原氏】 例えば、自治会単位に限定するのではなく、班単位でも補助を実施するなど使いやすくすることも検討してもらいたい。保育所の話でも病児保育の話でもそうだが、市が実施するのか民間が実施するのかで大きく話が変わってくる。

【久座長】 最終的なアウトカムの指標になっている、そこへ至るまでにどのようなシナリオを書いていくかということを示していただければもっとわかりやすい。

【石川氏】 昨年防災イベントを開催したが、子育て世代の参加者も多く、とても盛況だった。その際も市から後援はもらったが、あまり協力的ではなかった。生駒市に限らず、奈良県民は、根拠はないが災害は来ないと思っている人が多い。これはとても怖いことで市民の防災意識を高めることは生駒市の課題だと思う。ローリングストック法の紹介など、意識付けを積極的にしていけないといけない。市民が発案したときに、もっと積極的に乗っかってくる市であってほしい。

【前原氏】 生駒市民は自分たちが災害にあうという意識が低い。東日本大震災のときに津波の被害にあった隣町の救援訓練を毎年行っていた市があり、有事には実際に救援活動を行い成果をあげた。そのような役割もあることは認識しておきたい。生駒市にできることは何か研究しておきたい。

【久座長】 この分野の書きぶりが全般的になっており、子育て層に対する効果が見えにくい。それぞれの担当課が、ここでは子育て層に対してのアプローチを書くことを求められているということを再認識する必要があると思う。他市では、ママたちが防災のグループを作って活動しているところもある。生駒市でも地域で位置づけられていけば良いと思う。

【竹本氏】 前回の検証で、自主防災会活動推進補助金の上限を10,000円から30,000円に変更するとあったが、その効果を書いたほうが良いと思う。

【久座長】 P D C Aをきちんと回せるようにしてもらいたい。

1-3-2 地球環境にやさしいエネルギー利用の推進

【久座長】 固定買取価格が下がったから、設置件数が伸びないということは、環境意識

が根付いていないということだと思う。

1-3-3 住宅供給の推進

(特になし)

1-4-1 子育て世帯への経済的支援

【久座長】 乳幼児健診受診率は受診者数の方がわかりやすい。

【前原氏】 連続で受診していない人はいるか。

【事務局】 連続して未受診の人はいないと聞いている。

2-1-1 ワーク・ライフ・バランスの推進

【久座長】 テレワークは最近始まった仕組みなので、イメージが市民に伝わっていないかもしれない。もっとPRされたい。

【鐵東氏】 生駒市は専業主婦が多いからか、働きやすいまちというイメージを持たれていない。生駒に住んで、大阪に勤めている人は多いのだろうが、その地域に定住してその地域で働き、その地域の経済に貢献したい人が少ないと思う。そのあたりを変革する施策が見えていない。もっと情報をもらえれば、県と連携するなど可能性が広がると思う。

【久座長】 ワーク・ライフ・バランスということだが、ワークばかりに目がいており、ライフに着目したPRがされていない。

【鐵東氏】 田舎は都会に比べて不便だが、都会にあって田舎にない問題もたくさんある。評価基準も変わってきているので、どちらの環境が良いかは実際に住んでいる人に聞いてみないとわからない。民間ができることと行政ができることがうまく連動できれば、本当の意味で住みやすいまちに繋がるのではないかと思う。

2-2-1 市内産業の活性化

【久座長】 この分野に限ったことではないが、基本目標の「母親が希望のしごとをできるまち」を意識した記載になっていない。

2-3-1 ビジネスにつながる人的ネットワークの形成

【久座長】 起業者支援は、セミナーに集まってもらうだけでなく、その後起業希望者同

士で繋がってもらうことが重要。

2-3-2 起業に対するきめ細かな支援の充実

(特になし)

2-4-1 子育て支援に関する事業活動の創出

【石川氏】 アズママとの連携事業について、取組内容に記載したほうが良いと思う。

【久座長】 利用率が低い原因はどういったところにあるのか。

【石川氏】 お金を出してシェアするということが根付いていないのかもしれない。なかなか踏み込んで積極的に利用される人が少ない。

【久座長】 推測ではあるが、関東と関西の差もあると思う。

【石川氏】 ファミリーサポート事業も数は伸びているが、利用者から預けづらいなどといった意見を聞くこともある。

2-4-2 介護・福祉分野における事業活動の創出

【久座長】 資格取得者支援が苦戦している。国も様々取り組んでいるが、介護職の勤務条件も、なり手不足にかなり影響している。

2-4-3 食に関する地域産業の創出

【久座長】 基本目標の「母親が希望のしごとをできるまち」の中での農業ということで、女性の新規就農者がいたことは評価できる。

【鐵東氏】 生産者同士の交流のお手伝いをしているが、地域限定では難しいところ。儲けるというよりライフスタイルに連動しているのだと思う。生駒市は都会感があって洗練されているように思うが、地域愛を感じるが少ない。

【石川氏】 生駒には売る場所が少ないと思う。売る場所がなければ生産農家も増えていかない。

【久座長】 数人でも農業で生計を立てている人がいるのであれば、そのノウハウをシェアしていけば広げていくことが可能。みんなで知恵を出し合えば、新たなスキームを生み出すこともできる。

【篠田氏】 林業や漁業にも言えることだが、後継者問題を抱えている。成功していると

ころは若い人が活発に活動されている。若い人に元気がないと地域は活性化しない。

3-1-1 イベントの開催

(特になし)

3-1-2 文化芸術活動やスポーツ・ツクリエーション活動への参加機会の創出

【久座長】 市主催のスポーツイベントの参加者が減っている。全体的に見ると増えているのであれば、補足としてグラフに書くべき。

3-1-3 教育環境の充実

【久座長】 公立中学校への進学率が下がっている要因を分析して、対策を練る必要がある。そもそもの目的を再認識して取り組まれない。

【前原氏】 東京と比べると公立中学校への進学率がとても高い。生駒市は恵まれていると思う。

【久座長】 他市でも、市全域から通えるようにしているところもある。

【内藤氏】 県内でも都会の生活が合わなかった子どもを受け入れている学校がある。

【石川氏】 生駒北小中一貫校は、校舎がとても良い。地元の理解も得られている。

3-1-4 協働による魅力創造

【久座長】 郵送調査とWEB調査の回答の傾向に差があるかもしれない。

3-2-1 まちの魅力発信

【久座長】 KPIの「パンフレット配布部数」がアウトプットになっているので、アウトカムとしてどこまで達成されているのか意識しながら取り組まれない。

3-2-2 観光振興や広域交流の促進

【鐵東氏】 ターゲットが日本人なのか外国人なのかによって方向性がかわると思うが、いずれにしても現状では難しいと思う。

【石川氏】 宝山寺をもっとPRすれば、外国人も生駒市を訪れるのではないかと思う。現状では素通りするまちになっている。

【久座長】 基本目標が「子育て層（特に女性）が転入したいまち」なので、ターゲットが集まっているイベントで効果を測ることも必要だと思う。

基本目標1 「子育てしやすいまち」

【久座長】 住みやすさの満足度は高いが定住意向が低い。詳細の分析をすれば原因が見えてくるかもしれない。

【大原氏】 住み続けたい割合はもっと多いのではないかと思う。

【事務局】 指標は、「ずっと住み続けたい」と回答された割合に限定しているが、「当分の間は住み続けたい」を含めると、80%を上回っている。

基本目標2 「母親が希望のしごとをできるまち」

【前原氏】 女性の就業者数が増えているのは、生駒市に限ったことではなく、労働市場の問題だと思う。

【久座長】 様々な取り組みをされているが、これといった成果が表れていない分野だと思う。ワーク・ライフ・バランスのライフの部分を実質させないとワークの部分がうまくいかない。

基本目標3 「子育て層【特に女性】が転入したいまち」

【久座長】 KPIの子育て層の転入者数が伸び悩んでいる。

【事務局】 30代の転入者数は減っているが、20代の転入が増えている。シティプロモーションが若い世代に響いているのかもしれない。

【久座長】 その方々に定住してもらえると自ずと30代も増えていくので良い傾向だと思う。

【鐵東氏】 地元に対する愛着が薄れてしまっているのではないかと思う。地元に戻ってこずに大阪で定住する人が多い。

【竹本氏】 人口減少に歯止めをかけるためには、小中学生の年代に地元愛を抱いてもらえるようにしないといけない。

【鐵東氏】 東京の大学で実施されたアンケートで、東京に住みたいかを尋ねると、半数以上が住みたくないと回答した。一方で、地元に戻りたいかを尋ねると、帰りたくないとは回答する。地元に戻ってくる仕組みづくりが重要だと思う。

【久座長】 他市では、里帰りした孫向けのイベントをしているところがある。孫に楽しいと思ってもらえることで、帰ってきて住みたいと言ってもらえる。

【石川氏】 プラレール広場でもおばあさんが孫向けにチラシを持って帰られることがよくある。子どもの心に種をまくことが大事。子ども時代にどれだけ楽しい体験をしたかによって将来帰ってきたいまちになる。

【鐵東氏】 今は記憶とまちが連動しなくなっている。単なる親が選んだまちであって帰ってくるという認識すらないのかもしれない。

【久座長】 この分野では多くのことに取り組んでいるが、きちんと成果を分析したうえで、メリハリをつけて、一番効果があるものに力を入れて取り組んでいくと良いのではないかな。

【久座長】 ありがとうございます。それでは、これで各項目の意見聴取を終わらせていただきます。

【事務局】 今後の進行管理手順等説明、閉会宣告。